

隊でなしに一機一々が、やはり白い尾を引いて高くを旋回したり、雲の中にみえなくなったりしました。一機づつの場合は、余程いい眼でないと思えない。鉄かぶとをかぶつて上を見てゐるのにつかれた我々は、防空壕になつてゐる築山にあふむけにねそべつて、雲や飛行機をながめました。半鐘のなる度に、誰かは敵機をみつけました。「アメリカ兵はもうかなはんと云ふ時は死んだふりしてたふれてゐるさうだよ。俺達も死んだふりしてゐようか」。

どうやらこの辺は、一つの通路になつてゐる（小田急が）らしいが、高射砲も近くではならないし、甚だ現実感に乏しい。それにこの分室の連中は、大部分住所がこの近辺なので、家の心配をする者も少く、自然にのんびりしてゐたのでせう。西井君は「鉄カブト重くて腹へつたね。いもをふかさか」と、二時頃から云つてゐました。結局このノラクロ伍長の要請に従つて、三時半までケイホウが続けばふかさうと云ふことになりました。所が三時に空襲警報とけたので、食欲の権化、ノラクロ君の待望はみたされずに終りました。警戒警報も五時にはとけました。

空襲があると五時間は電話がかへないので、いねちゃんや本室が気がかりのまま、火を起し、食事（サトイモのふかし）をこさへました。間もなく中尾課長の使が来て、今経堂の駅にゐるから、状況をさかしてほしいと云つて来たので、小使さんが報告に行きました。本室も無事、いや、銀座、日本橋、神田、丸の内辺はすべて無事で、やはり工場地帯ばかり狙はれたのでした。いねちゃんも無論無事でせう。手紙はすぐに書いたもので、いねちゃんのことを書けなかつたが、多分いねちゃんからも報告が行くでせう。之が帝都空襲第一回のもやうです。

高射砲弾は、この間も銀座と九段とに不発弾が落ちて人が死んださうですが、今度も錦町河岸かどこかでトラックの上におちて、こつぱみちんになつたさうです。そのため神田辺では多少動揺するもやうともききました。

廿五日、即ち今日の十一時二十分頃にもケイカイケイホウが出ました。今日は曇つてゐたので危いと思ひました。味方飛行機の爆音も雲の上ばかりできこえました。幸ひ二時前に解除になつたので、原稿をダイヤモンドに届けに行きました。速達はきかないし、切はすぎたので、届ける責任があつたのです。

あなたのお手紙No.31（廿一日付）、32（23日付）を、夫々、昨日、今日拝受。僕も昨日の朝、白田君にたくしてNo.24を出しました。

桃ちゃんを勉強相手に出来てよかつたと思ひます。教育とか指導するとか云ふことは、人を教育するのだと思つたら出来ぬ。自分をも同時に教育するのだと思はないと。よく我々の友人でも、結婚して妻君を教育するなんて云ふ連中は大てい失敗する。妻君の観念を改革するのではなくて、自分の観念を改革するつもりでなくては成功しない。だから共に

勉強し共に自分の固定観念を变革し、ひろげて行くと云ふ氣組みが大切です。大金さんも問題をはつきり認識出来たとすれば甚だ結構です。

今日は神田へ本を買ひに行つて、時間が余つたので、森井さんの勤め先へ寄つてみました。ダイヤモンドからまわつたので、この間云つてゐたアポリシヨニストの伝記叢書 American Reformers 十一冊（金八十円也）を二つのふろしきづつみにして、彼女のゐる富士出版へあらはれた時は三時半でした。四時半に竹中君と日本橋で落ち合つて一緒に食事する予定だったので、半時間ばかりおしゃべりしました。森井さんは彼女の好みとでも云つた風な、エビ茶に近いほどのサビ褐色と黒ともやうのあるモンペ、標準服姿で、齒をはらしていびつになつた顔をやや氣にしてみました。神田あたりの間口のせまく奥行きばかりの三階建て、出版屋によくありさうなさう云ふ建物の、丁度まん中になつた二階の暗い、昼間から電灯の要るごたくした部屋、それが森井さんの部屋ださうだが、社長室（之は通りに面してゐる）とお勝手（之は裏に面してゐる）とはさまれ、片一方に二階から三階への通路があつて人がガタゴトと通る、さう云ふ部屋です。之ちや健康に悪さうです。

「昨日、余りいいお天気でせう。午後臼田さんと二人で散歩に出たのよ。そして今度は菊池さんのところへおしゃべりに行きましたうて云つてゐたのですよ」「さうですか、日曜なら昼間はだてゐるますから、どうぞ。いつでも。だけど臼田君も兄さんの不幸で、このところ大変ですな」「さうよ、自分のことや家族のことで彼の子もおちつけないわね。今朝あたしと一緒に、高崎へたちましたわ。寿岳さん（寿岳文章と云ふ人の息子で、それが臼田君のリーベなんです）の事でもなかなからしくとはいかないのね。おききになつてらつしやるでせう」「うん」「寿岳さんて方も変なのね。よくあるタイプなんでせうが、自分を愛してゐると云ふのなら、他に男の友人をもつて来たと云ふ氣持がわからない、と云ふんでせう。臼田さんは友人とリーベとの区別ははつきり持つてゐるのよ。その点とても自由で解放されてゐるんだわ。寿岳さんのやうな意見は、臼田さんだけの問題ぢやなくて、あたしたち全体の問題ですわね」「さうですね。あの手紙は出したのでせう。長いを書いてたけど」「ええ出したやうよ。あの手紙書いてから、大分元氣になつたのよ。あれまで何だか思ひなやむ風で元氣なかつたわ。菊池さんにすすめられたのですつてね。菊池さんに手紙を書きなさいつて云はれたから、今日は一日かかつて書いたんだと云つて、嬉しさうにしてゐましたわ。元來あの子は、自分の寿岳さんとの恋愛の問題なんか話しても、菊池さんに一笑に附せられるだらうと思つてゐたんですつて」「ふうん。どうしてかなあ」「それが一笑に附せられるどころか、迎もまじめにきいて下さつて、いろ／＼判断や意見を云つていた

だいたと云つて、本当に感謝してゐますわよ」「僕も実は話が一向抽象的でよくわからないんですがね」「ただ此の頃の若い人は苦しむことがいやなのね」「どうして」「だって臼田さんは、寿岳さんとの関係も、苦しむのならないやだつて云つてるんですよ」。

「僕そんな風にはとらなかつたな。僕は二人ともまだ本当の意味で、自分達の関係も愛情の質や量もわかつてゐないのだと思ふ。臼田君がためらつてゐるのは、苦しむのがいやだと云ふ風なものではなく、まだ二人の関係及び愛情に不確かな、納得出来ないものがあるからだと思ふ。まだどこかうそがあると感じてゐるからなんだ」「うそ？ どちらにうそがあるんでせう？」「両方ですよ。向ふの感情が本当のものでないと云ふ疑念より以上に、今臼田君に問題なのは自分の感情の疑念ですよ。自分は之まで相手をひたむきに要求して来た。そしてその感情を恋愛だと信じて来た。所が恋愛は一方からの欲求だけで成立するものかどうか。相手が自分を本当の恋愛感情で愛してくれてゐると思へないのに、自分の感情は果して恋愛といへるかどうか。それが疑問になつて来たのですよ。僕の話をきくまでは、自分の感情は文句なしに恋愛だと信じてゐた、とかうも云つてましたよ。僕は恋愛とは絶対給附でなければならぬ。事実本当の健全な人間なら、自分を欲求してくれもしない人を全身的に欲求するものでない。相手の欲求とこちらの欲求とは、深く進めば、極めて微妙に反応しあふもので、その合致こそが眞の恋愛だ。その合致がない場合は、厳密には恋愛とはいへない、とかう云つたのですよ」「さうでせうか。恋愛にもやはり無限の個人差があるんぢやないでせうか」「無論個人差はありますよ。だけど基準があるんですよ。そして臼田君には、まだ自分の感情の性質をはつきり判断出来るほど、人生体験をもつてゐない。リーベの感情と友情との区別のわかる程度のね」「いえ、彼女は体験があるんですよ。前に五年もつきあつてゐたボーイ・フレンドがあるのよ」。

「そのことが今寿岳氏から問題にされてゐるんでせう。だけどね、前にある体験の数で決定出来ることぢやない。本当に深い体験、それ一つでも充分凡ゆる人間関係について判断できるやうな体験、人間関係の判断の基準を獲得したやうな、さう云ふ体験をもつてゐないと云ふんですよ」「そりやさうかも知れないわ」「だから僕は自分の体験なり思索なりから得て来た基準を彼女に話して来てゐるんです。人間関係、従つて人間の愛情には先づ多くの種類がある。友情とか恋愛とか、親子愛とか兄弟愛とか、同僚愛とか同胞愛とか、之が横の線。それに加へるに縦の線の区別がある。それは深淺の度合だ。そして友情と恋愛とは甚だ近い、同根の愛情である。恋愛は友情の量的發展から質的發展まで到つたものだ。友情が量的に深まつて、もう相手とより確固たる形式の結合なしには満足出来ない、その結合が出来なければ人

生の最大の不幸、そのためには死すら考へたいほどの不幸であると云ふ程度に達した時、相手のすべてを自らに合体せしめ、自分のすべてを相手に没入させたいと云ふ程度に達した時、その個人との結合を、他の一切の世界よりも欲求する程度に達した時、かくの如きものを恋愛と云ふ。そのやうな人間の愛情は、二人の結婚と云ふ形式以外では満足出来ない。こんな風に話して来たんです」「さうね。さう云はればたしかにさうね」「だから恋愛が真に成立するためには、世界観と生活感情との基本的一致が必要である」「それはさうですわね」「だが、世界観は一朝一夕に出来ないし、生活感情とは結局世界観の日常生活面への帰結にすぎないのだから、その真の一致は厳密には判断しにくい。だからもつと低次の、もつと根本的な資格は、誠実さと素直さ、客観的眞実に対する受容力とそれへの熱情の持続力すなはち誠実さ、である。この素直さと誠実さとを双方で確認することが第一、第二に世界観（物の見方、生きかた）と生活感情（物の感じかた）との一致、第三に双方でいのちがけで欲求しあふこと、之等が恋愛と云ふものの基準だ、と話してゐるんです」「よくわかりますわ」。

「それはそれでいいとして彼女の場合は、生活の仕方に誤つたモラルをもつてゐると思ふんです。それが問題だ。彼女はあなたも云ふやうに、人間関係について可なり自由な、解放された観念を、そして或る程度誠実な観念をもつてゐる。だが、まだ古い観念にも囚はれてゐる。例へば愛情と云ふことについて、受身な、待つ、と云ふ風な観念を」「それはいいんぢやないの。受身に自分の愛情の熟すのを待つのは、いいことなのではないの。あたしだつてさうするわ」「それは古いモラルですよ。そんなモラルでは本当のリーベは出来ない。アンナ・カレニナの中のレーヴィンの兄に、セルゲイとかがゐりましたね。あれ古い型のインテリの恋愛と結婚のモラルの所有者として典型です。彼は周囲ですつかりお膳立てして本人同志もそれを望み、予想し、理想的に機会と云ふものをつくり乍ら、内心の声と云ふ風なものを待つたために、さう云ふ神秘主義のために、受動のために、あの機会を逸して了ふでせう。あれは『待つ倫理』の典型ですよ」「でもセルゲイの場合はあの程度の恋愛でしかなかつたんでせう」「さうですよ。『待つ倫理』の所有者にはあの程度の恋愛しか出来ないんだ。古いモラルでは本当の創造的な恋愛は出来ない。セルゲイの倫理に対してアンナのそれがある。アンナはもつと積極的だつた。もつと行動的に悩んだ。彼女の悲劇は、彼女が行動的だつたからでなく、その行動が新しい原理で首尾一貫しなかつたからだ。彼女のモラルの正しくなかつたからでなく、彼女のモラルよりも社会的因襲の方がなほ強大だつたからだ」「それはさうですね」「待つとか受身とかはリーベだけでなく、友情としても不誠実ですよ」「あら不誠実かしら。さうぢやないわ、待つことが誠実なことだつてゐるは。無理することの方がよくないのかわ」「無

理解することと待つことが対立的概念なのではない。待つやうな人間は同時に無理もする人間だ。そして待つことや無理することは、共に主観的には誠実であつても、客観的には誠実でない。事の真実に対して誠実ぢやない。例へば田田君の場合、相手の感情に疑問があり、自分の感情にもはつきりしないところがあるのでせう。それを彼女は相手が自分から発言し、言表するのを待ち、自分では何か感情がもつと昂まつて来るのを待つてゐたんですよ。そんなことを待つてゐたつてわかるものでもない。お互ひの愛情にはつきりしないもの、うそと云ふと強すぎるなら本当でないもの、があると云ふなら、それをはつきりさせるには話し合ふよりない、行動するよりない。手紙も一つの行動でせう」。

「でも……さうね。手紙はいいわ。でも或る程度でも、さう厳密に感情を分析し規定しなくとも、うまく行く恋愛はあるでせう」「いや、うそのある恋愛は絶対にいけない。うそがありながらうまく行く場合は、それは本当の恋愛ぢやない。意識しないものは真に正しいものぢやない」「さうかしら。無意識で美しい行動、正しい行動、幸福な生活などあるのぢやないでせうか」「いや、無意識の正しさや美しさは、偶然的なものにすぎない。意識しない行動は人間的行動ぢやない。意識してこそ人間的正しさであり、人間的美しさだ。意識しない正しさは、はげしく変転し、力と力との格闘(闘)がぎりぐりの緊張した展開をする歴史的時代には、正しさとして持続し得ない」「それはさうですわね。でも、やはり時機と云ふものがあると思ふわ」「たたかひには時機はない。方法があるだけです。そして意識しないたたかひは、たたかひでなくて自殺にすぎない。たたかふと云ふことは徹底的に意識的行動であり、そしてたたかひは凡ゆる時の人間の唯一つのありかただ。たたかひをやめる時機なんてあつてはならない。どんな時機でもたたかふ方法がある。その方法を見出してこそ、たたかひは人間のたたかひにふさはしいんです。恋愛だつて、独りゐることだつて、たたかひです。待つ倫理はたたかひに於ては許されません。ただど一体何時ですか」「四時十分よ。いそいでらつしやるの」「四時半の約束、食べる約束だからめつたに逃がせません。ではまた」……。

竹中君は打ち合はせた時間に来ず、一人でたべました。

### 幸子から謙一あて（一九四四年一月二五日の記）※

十一月廿五日

判は飯田へゆくついでにお母さんに取つて来て貰ひましたら、池の字が地になつてゐたので、なを(な)さなくては駄目だし

た。又随分時間がかかる事だ。

昨日午後の東京空襲と同時に、名古屋にボーイング100機、豊橋に18機来た相で、駅の人からききました。東海道線は一  
時不通であつたとか。そちからの精しい様子(まぶ)がわかるまでは、何と不安でせう。

今日はどうしても勉強出来ませんでした。こんな事では本当にだめですから、夜は氣をとりなをしてやりませう。今  
で怒りの葡萄を読んでみました。何と云ふ絶望でせう。トム(ジヨオード家の長男)の精神状態は始めは甚だばくとし  
たものなのですが、困難と不合理にあふ度に段々と物を考へる様になり、そこから立ち上る様になるでせう。父親や伯  
父は困難にまけて考へる事は出来なくなる、唯、追ひやられ落ちてゆく一方、母親は何時も夢もまぼろしも抱かず、現  
実に当面してゆくが、何故と自分ではつきりわかつた理屈なしに、とに角現実をそのまゝ受入れて、それにふみつぶさ  
れない。「とに角今までさうして来たんだよ。これからもさうなんだ」。あの家族の一群で、三代に亘る自由農民の氣質  
がわかる様に思へます。祖母(おば)祖母の時代、其の氣質、父と母、三代目にはいると昔持つてゐた氣位や積極性は失はれ、  
なりゆきまかせに見える。併しトムの中に、それから抜け出す動きが察(さ)しられる。時代に影響され規制された精神を見  
る事が出来ます。土地、借金、地主、地方銀行、その後にある巨大資本、プランテーションを読んだ事は随分役に立ち  
ました。

今日、本と煙草の小包みつきました。本当に有難う。廿一日までなすませねばならなかつたところでした。一度に  
あげるとたちまちなくなるから、五本位づつちびく渡すつもりです。

今日も又朝からお母さん大荒れ。家中不愉快にされます。他所へいつてもちのわるいお世辞で、さんざん甘やかされ  
て来ると、家の者の甘やかしのないところが面白くないのです。私もとしとると、あゝも理性を失ふかしら。私はさう  
はなるまい。なるまいためによく勉強し、物のみ方をきたへあげよう。

あなたの歴史論は非常に面白くよみました。立派です。たしかにその通りです。何時でも歴史的問題提起を自分で読み  
とらなくてはなりませんね。しかも適確(ていさく)に。それに対する二つの態度―これは何時も自分の中にあるのですが、竹中さ  
んの結婚問答のそのように、自分の中にも二つの態度があります。これは何に對しても、あらゆる現実のあらゆる現  
象に對してさうですね。私は何時でも、そこまではつきりしてゐませんでした。本當に自己の中の二つの對立物として  
考へる時、自分の態度はつきりきまつて来ますわ。自分でもどうやらはつきりしない、何だかさうらしくもあるし、  
このようでもあるしと思ひまよつて、まだはつきり決められないのは、そこまで考へられるところまで達してゐないの

だから、もう暫くまつてゐる中にはどつちかする、なんて考へてゐたものです。あなたと竹中さんの結婚問答は、私は多分に啓蒙されてゐます。歴史家の任務もさうですが、歴史家でなくてもさうでなくてはなりませんね。

あなたに云はれてから云ふと、お追従みたいな形ですが、そんな事は気にせぬでせう。あなたのプランティションは、たしかにあなたの歴史論を、そのまゝに表現してゐます。読む人は、とび読みさへしなければ、嫌でもそこに生々しく示されてゐる問題を掴みとるでせう。其の意味でも、啓蒙に役立つてゐる事も示すでせう。事実私共のまはりにある、何だかわからないモヤ／＼した怪しいもの、誰もがそれを何だか示してくれなかつたもの、何時でもどんな問題の中にも必ず潜んでゐる影を、正体を、はつきり知る事が出来る、はつきりさせる道も知るでせう。あなたの意図した問題提起と啓蒙は統一され、成功してゐます。私のような怠けもの、読者すら一段と認識の点で上に進めたのが、何よりのシヨークではありませんか。

問題提起と、歴史の必然と可能性の問題も、これ又日常の生活の中にもざらにある事実ですね。——どうも私は何も彼も卑近な身近へ例をとり度がる様です。その方が、私には親しく理解し易いのです。ですが、あの辺のところは、もつと何度もよんで見なくては、本當にわからないでせう。併し可能性を現実性まで、必然的なものまでにするものとしては、不断の啓蒙こそが必要なのでせう。例へば竹中さんの場合でも、竹中さんが見合結婚などの非人間的行為を排げキするまでの、はつきりした意識的行動に出られるまでは、あなたはあなたの今やつてゐる、正しい彼の分身べんたつをつづけるべきでせうね。

此の頃のあなたの手紙は中々よみごたへがあつて、何度も／＼よめますから、毎日手紙が来なくても、ゆつくりたんのうするまで読んだり、考へたり出来てうれいす。竹中さんとの結婚問答は、その後引つづきNo.をつけて、大金さんに送つてあげてゐます。

廿一日発No.23の手紙うけとりました。大変なほめ方で少々落ちつきません。ペラグラ病について、たま／＼云へたとしても、他の点ではまだだめなんです。自分自信あるところまで行つてゐませんから、実のところ今ごろあんな過大評価されては、後が困るの感じす。あなたの云ふ通り、ノオトもこれまで通りであつてはいけません。あなたのプランティションは実にごこにも示される問題あり、それを自分でろくに考へない中に解決への道が見えて来るので、別に自分の考へなんかをいれる余地がないのです。云つてみれば、あちらこちらにぼつん／＼と何かあつて、はてな、怪しい、ここは考へてみなくては、と云ふのぢやないんです。あの書き方の中には全部が真実で、本當だ

く、こんな事もあつたのか、さうなのかと云ふ風に、案内知らないところ乍ら、うそはないこと、必然的にかくあらねばならぬ道が、目の前にのびて来る感じがするんです。其の事は今まで考へもしなかつたし、知りもしなかつた事実を知り、提起されてゐる問題を知らぬまに擲んでゐることでせう。さうして解決の道も知らぬまに知る事です。

まだまだ当分私はプランテーションに沈潜するつもりです。今はコントンとして何も云へない、遠へはなして、あれこれ云へないところなんです。あなたに云はれれば、「プランテーション」と「南部問題」では大部質的(大部質的)にちがふ事はわかるけれど、でも他の此の頃よんでゐるものゝ中では、著者の問題にうちこむ、うちこみ方が異ふし、矢張り問題提起の問題の質の差も大分ちがつてゐますからね。

さて、此の手紙とどくかしら。空襲さわぎで粉の小包みどうかならなかつたかしら。

では今日はこれでやめませう。空襲で怪我などしないよう、安全を祈ります。

※この一月二五日記の手紙文は、後掲の同二六〇二七日記の手紙文と別々に折りたたんだ形で、共に二七日消印の封筒中に挿入されていた。

しかし同封筒裏面に記された通し番号は「36」、さきに掲載した二五日消印の封筒のそれは「34」で、両者の封筒の間にあつたと思われる「35」番封筒は見つかっていない。この一月二五日記の手紙文は、何らかの事情で「36」番封筒中に紛れ込んでいたが、本来は「35」番封筒に入っていた可能性が高いものと推測しうるであろう。それゆえここでは一月二五日記の手紙文を、二六〇二七日記の手紙文とは別に、これのみで郵送されたものとして扱った。

### 謙一から幸子あて（一九四四年一月二六日の記）

十一月二十六日（日）晴

今朝、あなたのお手紙二つ（廿三日夜と廿五日付、但し後者はスタンプの日付は廿四日）受けとつた。それと一緒に早川君から、松沢君が召集を受けたこと、その送別会を月曜日の午後五時から本郷の大熊氏宅でやるから、米持参で来るやうに、とのハガキもは入つてゐました。

廿三日のお手紙では、風邪をひいたとのこと、注意して下さいよ。僕はいつも大した風邪にはならないが、あなたのは心配だから。夜は無理しないで早くねなさい。東京はこの数日は迎もあたたかで、夜でも十四、五度です。昨日なんか、



夜になるからと思つてオーヴァをきて出たが、あつくて汗が出ました。

昨夜は森井さん所から日本橋に出た所が竹中君が来ないで、一人で八重洲園の裏手の長田屋と云ふ外食券食堂へは入りました。その食堂がうまいから僕の外食券(利ちやんにもらつた)で食ひに行かうと約束したのです。竹中君が食ひ物の約束をはぐらかしたのは、よく／＼のことだつたのでせう。そこはなるほど御馳走があつて、テンブラやら蟹やらがありました。僕は遅くなつたためにねぎましかなかつた。でも久しぶりのねぎまで、まぐろもたつぷりは入つてゐて、二杯くれるのですから御馳走でした。普通の外食券食堂は大ていいもださうです。

ところであなたの風邪はその後どうなのですか。あなたがプランティション一てんばりの此の頃だと云ふが、僕はこの一年、いやこの二、三年、プランティションを中心に精神生活をやつて来たのです。あなたのお手紙は決してあきません。変つた内容など必要ありません。あなたの一番興味をもつてゐることを書いてくれれば、それが一番僕にもいいのです。

あなたの質問「クロッパー及び零細農の絶望的な生産努力」と云ふことは、あなたの考へてゐる通りの意味です。彼等は生産することが値下りを激化させ、苦しみを増すことになつても、生産するより他の生きかたがない、だからその生産努力は絶望的なんです。ニューデイルとは、このやうな小農民の絶望的な生産努力が値下りを激化させて、プランター等の利潤を脅すので、プランターの利潤を守るために、小農民の生産努力を強制的に停止させたのです。

オペラハットやスマイス氏の映画はあなたの云ふ通り。あのやうな解決は無論映画的な、娯楽的な解決方法にすぎない。丁度オーケストラの少女の失業音楽家の救済方法が真の解決でないやうに。にも拘らず問題のある所をはつきり提起したこと、その問題をはつきり描き出して考へさせたこと、これらはプラスです。丁度仮面の米国や、飢えるアメリカや、いくつかのギャング映画、四人の復讐等々のやうに。でも、あれらの映画は大てい、南部問題のメツセーヂの前の企画でせう。怒りのぶだうは、一九三三年のタバコ・ロードに続く問題作で、オーキーとはオクラハマ(南部)から流れ出た移動労働者です。ああ云ふ悲惨な移動農業労働者が三十五万家族二百万人ゐたのです。「プランティション」の第二章第一節に出てくるでせう。

アンネットの問題。アンネットが第一巻でロジエに身をまかせせる心理がわからないと、あなたも云ひ臼田君も云ふ。それは二人ともまちがつてゐる。と云ふのはアンネットは第一巻第二巻、いや全体を通じて成長して行く人間なのです。最初はまだ、資質と原理とをもつてゐるが、まだまだ本当のものでない。その動揺や不徹底があやまちにもなり、ロジ

エトのことにもなつたのです。ロジエとの頃のアンネットは、そんな風に反原理的行動もする女です。にも拘らず原理を追求する資質がだん／＼勝つて行く。だが、アンネットの我々に物足りない点は、ロジエとの行動の全帰結（マルクの苦しみ、その自我主義との格闘）を本当に批判してはゐないと云ふことです。アンネットの形象は、アンネットがまだ欠陥多い人間である前半の方が、後半よりもはつきりしてゐる。後半でアンネットは、その過去のものの克服を、神秘的な母性愛へのとけ込みによつて達成してゐるが、あれは厳密にはリアステイクでない。ロマン・ローランはまだ人間の過去のなもの、遅れたモラルの全部を批判し切れてゐない。だからこそ、後半のアンネットがあいまいになつた。後半の面白さはアンネットの形象にあるよりも、戦後フランスの歴史的叙述、素材の面白さだと思ふ。前半の面白さはたしかにアンネットの形象に起因する。

僕はもう一つ不満に思ふことがある。それはアンネットが、常に女でありすぎることだ。いつでも男性との結合を通じて在らうとし、後にはやはり母としてあらうとする。そして彼女の「女」は、人間と云ふものから若干遊離してゐる。それは丁度、森井さんが「女」と云ふことを云ひすぎ、「女」にとらはれすぎることによつて、「女」なるものを抽象的な、「非人間的」な、余りに特殊な、男の世界と隔絶しすぎた神秘的なものにしてふやうに。ロマン・ローランはもつと人間としての女を、アグネス・スメドレーのやうな女を、女としてよりも人間としてありたく欲し、人間としてあらんがために「女」の不利を自ら克服するやうな女を、描くべきでなかつたか。そして「女」を非人間的な特殊へ神秘的に固定させたのは、やはり十九世紀後半だ。バルザックもずいぶん分女を描いたが、そこには女と男との非人間的な対置はなかつた。女の世界の神秘化はなかつた。ロマン・ローランのその点の不徹底から、アンネットがいつでも恋をしすぎる、女の原理とは恋愛の中にしかないかのやうに。アンネット自身がその点を自ら批判すべきだつた。僕は非人間的なまでに女らしい女よりも、もつと人間的な、女らしくない女の方が親しく感じる。先づ人間、それから女。女であるより先に人間であること。人間としての資格は、自由で、独立的で、普遍的であること。だからアンネットよりアーシヤの形象の方が、我々には近く感じる人が多い。マルクの形象は、最も印象的なのでなからうか。アンネットよりもマルクの方が歴史的に重大だと思ふ。僕は女とか男とかと別に、アンネットよりもマルクの形象を忘れることが出来ない。

竹中君、白田君についてのあなたの意見、之も正しい。竹中君或ひはあなたの云ふやうに、その相手を好きになつてゐるのかも知れない。だが、彼はちよつといひ方だと思ふと、すぐすきになる傾向がある。それが彼の人の好きだが、人

の好きと云ふことは、人を見る眼の甘さと云ふことと結びつく。

今日は午前中に伊藤君が弁当持ちで来ました。「どうだった?」「明治生命の地下に逃げこんで寐てゐたよ。ちつとも情勢がわからんのでつまらなかつた。帰りの電車が大変で、あれが閉口だよ」「なるほど、交通機関が一番問題だな。この辺はよく見えたね。工場ばかりやられたさうだね」「土屋さんの近処ぢや、教会が狙はれたらしい。大分立派な教会で、アメリカ人の建てたものださうだが、その住人はすつかり逮捕されて、あとへ憲兵隊が来てゐたんださうだ。そこを狙はれたんだ。尤も半町ばかり逸れて民家がやられ、防空壕（防空壕）の中で四人死んださうだ」「そんな建物、この近処にありはせんかな」。

そんな風なことを話してゐる中に、午後一時にまた警戒警報が出ました。「定期便になつちやつたな。香ばしくないね。それより君の友達の家庭悲劇の話でどう云ふんだね」「うん。あれは野間の妹の話なんだ。野間の親父は英語の先生なんだがね。その教へ子で、どつかの中学のやはり英語の先生をしてゐる文学青年が、野間の家へ出入りする中に、野間の妹に求婚したんだ。それもちゃんと親父に申し込んだんだよ。で、親父が娘にすすめる、娘が承知する、と云つたわけで、この五月に結婚したんだ。野間も親父も、うまく行つてゐるんだと思つてたんだがね、ところがうまく行つてなかつたんやな。どうもしつくり行かないんで日記を読んださうだ」「誰の? 亭主君のか」「ああ。そしたらね、そのヘルの方にごとかの女学校の女の先生とリーベの關係があつたらしいんや。それは丁度結婚前には立ち消えになつてゐたんだね。ところが結婚後何かのチャンスで復活したんだらう。日記にはその女の先生への恋情をめん／＼と書いて、それと反比例して、自分の結婚してゐる相手への感情の冷却を書いてゐるんださうだ。あんな顔のまづいのと一緒になつたの失敗だなんてね」「だつて自分で申し込んでおきながらかい」「さうだよ。つまらん男や。その妹さんから野間へ来た手紙を僕も読んだがね。自分の亭主はつまらん文学青年で、と云ふ風に大分細く書いてゐて、あの分なら気持はちつともへばつてないね。考へるところは考へ、書くべきことは書きつくしてゐると云つた感じがね。とにかく、そんな日記読んで一緒にゐるのあほらしくなつて、何かの口実で帰つて来たんやさうな。それで野間も怒つたんだね。むろん離婚させる、だけどただ離婚してすませると云ふのシヤクや云ふんだ。僕も野間の気持に同情するね」「ふうん。それで彼女は?」「彼女はね実はまたヘル（ヘル）の所へかへつたんだ。と云ふのはね、野間のムツター（ムツター）が向ふへ云つたんだね。すると向ふの両親がかん／＼に怒つて、息子を呼んでぎゅう／＼やつたらしい。そして息子を叱つといて、野間の家へはあやまつてよこし、息子はうんと叱るから、とりあへず帰つて来てほしいと云つて来たんださうだ。だから一先づ彼女

もヘルの所へ帰つたわけや」「ちよいと妙なもんだな」「うん、妙だけど、彼女も別れる意志はつきりしてる、野間も、どうしても別れさせる云ふてんのや。そいでね、離婚と云ふのは出来るもんかね。相手が離婚しないでがんばつたら」「そりや、説得するより仕方ないね。だけどそのためにもこつちへ帰つて来なくちや駄目だな。向ふで帰つて来てくれと云はれて帰つたりしちや、駄目だよ。そんな頼りないことしちや。とにかく身柄を別れさせてだね、それからその相手の両親を説得する。それでもいかん時は、調停裁判出来るんだらう。だけどそんな様子なら調停裁判の必要ないだらう。本人が別れて来さへすれや、説得ぐらゐ出来るよ。こつちは別れる理由は充分あるんだからね。それにしてもその文学青年の方はどうしてるんだらう」「その男は半キチガヒになつてるさうや」「半キチガヒ？ どうして？」「おやぢにはごつつう怒られるし、自分でどうすることも出来んしで、どうしていいかわからん状態や。半キチガヒや」「ヒスカ。何だか馬鹿らしい話だな。しかし野間君が妹のためにふんがいて、そのままにすまさんと云ふ気持はよくわかるが、元来こつちにも責任のある話だね」「どうして」「だつてそんな頼りない関係で、こつちが結婚を承諾したと云ふのは、こつちの責任だよ。恋愛でもないのに、簡単に求婚されたから行くと云ふのは、こつちもいいかげんだつたわけだからね。彼女にも責任の一半はあるよ」「彼女に責任あるかなあ。それよりおやぢに責任あるんやないかな。向ふはこつちのおやぢに申し込んで、おやぢが娘に行けてすすめたんだからね。尤もおやぢは今度娘にあやまつたさうだ」「おやぢもむろん悪いさ。だけど彼女も、おやぢから行けと云はれて行くと云ふ風なのはいけないよ。その程度にしか結婚と云ふ問題を考へてゐなかつた、まじめに考へてゐなかつた、たとひ無智だつたからと云つても、その無智自身、悪いことなんだよ。無智だつたと云ふこともこつちの責任さ。むりやり誘拐されたとかだまされたと云ふなら、ちよつとちがふがね」「そりやさうだね」「野間君にも責任ある。妹をそんないい加減な結婚やらしたと云ふことにね。だからさ、野間君が怒んのむりないけど、結局こつちにも責任のないことでないんだ。向ふの方がもつと悪いけど。まあせいゝ野間君がその文学青年と対決して、あやまらせるくらいが落ちだらう。慰謝料と云ふ風なものは、向ふの両親が気の毒がつて向ふから云ひ出すべきもんで、こつちから要求する根拠は薄弱だね。何しろおやぢさんも娘も、ちやんとこつちで承知して行つたんだし、文学青年も現実に他の女とどうこうしてると云ふより、他の女を思慕してゐると日記へ書いただけなんだとすればね」「さうだね。さう云はれば、たしかにさうだ。本人にあやまらせるぐらゐのものだね」。

「だからさ、女も男もいい加減な気持で、結婚なんかすべきぢやないんだよ。でも野間君の妹も、このことを自分のプラスにしないといけないね。いい加減な結婚観がいかにいけないものかと云ふことをうんと認識して、二度あやまちを

やらないやうにするのさ。それだけでも、不幸な結婚を人生の墓場にしてしまふより、どれだけよかつたかわからない。第一、野間君は、いい加減な結婚からそんな不幸がうまれたことに、それだけふんがいしながら、いつか小林君のフラウの妹と見合なんかしたぢやないか。矛盾だね」「いや、あれはあれきりになつたが、実は今、奴さんまた見合ひして、今度はそのままおさまりさうなんだよ」「何だつて。それで妹のことで、相手をただですませんと云つてるんか。でたらめだね」「さうだな。あれやめさせんといかん。もうどうにもならんとおもて、僕も何にも云はなかつたけど、こりやどうもいかな」「さうだよ。妹のことでそんなに怒る資格ないよ。そんなきみ。だからさ、こちらにも責任あるて云ふんだよ。結婚と云ふことをいい加減に考へてゐると云ふ点では、その文学青年だつて野間君だつて本質的に差はないよ……」。

警戒警報が出て間もなく、二人がそのことで話しあつてゐる最中、また一人お客が来ました。それはいつかも日曜に来た宮本君と云ふ若い人。宮川さんの弟子で和歌山高商から商大を出て、この十月に調査会の米研へは入り、下宿をさがしてくれと云つて来た青年。遊びに来たんです。

「米研、どう？」「面白くないですね。つまらん人しかゐないんぢやないですか」「さうだらう。だけどどこにだつてつまらん連中はのさばつてゐるよ。まあ自分でやるんだね」「ええ、ひまはひまですから。なるだけ自分の本を読んで勉強してゐます」「下宿はどうした？」「あれはうまく行きさうです。宮川先生がダンさんの家を紹介してくれました」「ダン？」「ダン、トクサブロウトクと云ふ人。御存知でせう」「ああタントクか」「あれ淡（タン）ぢやなくて淡（ダン）なんださうです」「淡さんの奥さんと娘さんと二人きりでゐる家に、下宿させてくれることになつたんです」「へーえ。宮川さんと淡氏とは何か関係あるの？」「仲人をしたんださうです」「ふうん。それで宮川さんはどこにゐるの？」「永福町のアパートですよ。淡さんも永福町です」「アパート？ 家族疎開したの？」「ええ。今先生と息子さんの嫁さんと二人でゐます」「息子さんの嫁さん？ だつてそんな息子さんゐるの？」「僕と同じ年だから廿五です」「だつて宮川さんはいくつだい」「四十五かなあ」「さうだらう。ぢや廿才で出来た息子か。若いねえ」「さうですね。若いですね。何でも大学へは入る前に結婚してゐたさうですから」「ふうん……」。

そんなことしやべつてゐる中に、また一人あらはれました。今度は八木君で、之は防空当番で、身仕度甲斐々々しくあらはれました。「ごくろうさま。わすれてゐたよ」「うん。大したことなささうだが、責任だけ果しに来た。空襲警報はまだ出んでせう」「さうだね、テイサツだらう。「機なんだから」「毎日来るとは困つたもんだ」……」。

二時頃警報がとけたので、先づ伊藤君が帰り、三時頃八木君も帰りました。それから宮本君と二人で、アメリカ経済史の話から経済史観の話になり、あなたやいろんな人にこの二、三年間話して来たことを、数日前にも北条君と話したことを、またく話しました。宮本君は若い人だけに、非常に熱心に質問もするし理解もするしで、時間のたつのを忘れ、僕の歴史論のウンチクを傾けました。彼も歴史がわかつて来たと言ひ、「菊池さんにさうおつしやられると、たしかにいろんなことわかつて来ました。今カピタル読んでみますが、本当におつしやる通りですね。僕は今まで余りその方の本を読まないで、経済史観と唯物史観との区別などわからなかつたけれど、だんくわかつて来ました。経済のつまらなさは、たしかにその中に人間のゐないやうな物のことばかりやつてるからです。物神崇拜をあげわらつたりしてゐるのに、自分がいつの間にか物神崇拜になつてゐますね」「さうだよ。経済やる人は特に注意せんといかん。生産力と云ふのは物の力でなく、物を生産する人間の力だよ。カピをよく読めばわかる。歴史の主体はどこまでも人間だ。民衆は物理的な力なのぢやない。そんな受動的なものでなく、それこそが歴史をつくるもの、歴史形成力なんだ……」。大いに若い人を相手に熱をあげてゐると、また誰かドアをのつくする人がある。今度はいねちゃんでした。衣類やくつ、下駄を疎開させに来たのです。五時近くなつてゐました。で、間もなく宮本君が、また話しに来ますと云つて引きあげ、僕は火を起しました。いねちゃんはすつかりお勝手をきれいにしてくれました。今夜はいねちゃんの御持参のお弁当です。ごはんとテンプラ。ねぎの串揚げ、おさつ、それからやさいかきあげ。中々上手に出来てゐました。僕はさといもをふかしました。此の頃さといもばかりです。おいしい御飯をたべました。

それよりついペンがあとさきしたが、みつちゃんところの赤ん坊が可哀さうになつたのですね。僕は明朝行くことにし、いねちゃんも午後行くことにしました。夜はうつかりすると小田急がなくなつて、帰れなくなると困るので。僕もそのうちくと云つてゐるうちに、とうく(たうとく)赤ちゃんのお葬式に行くことになつて了つて、本当に悪かつたと思ひます。まさかこんなに早く死ぬなどと思つてもゐなかつたのです。いづれにせよ、みつちゃんのがつかりは、何ともなくさめの言葉もない。島村君も悲しんでゐることせう。三ヶ月と云へば、ぼつく笑ふんぢやなかつたかしら。

明朝は鎌倉へ行き、夜は本郷で松沢君の送別会ですから忙しい。警報なんか出なければいいが。

なほ、いねちゃんには、空襲のあと必ず信州へ、無事の手紙を出すやうに云つておきました。では今日は之だけ。いねちゃんはピアノを少し叩いて、八時前に帰りました。いいお月夜です。

## 幸子から謙一あて（一九四四年一月二六〜二七日の記、二七日の消印）

十一月廿六日（日）

今日若しかしたら何とか便りあるかと思ひましたが、考へてみれば今日は無理ですね。そちらからの精い様子を心からまっつて居ります。お天気が良ければ良いで、又あるのぢやないかと思ふし、曇つてゐれば、こんな日こそ絶好の空襲日和だと心配します。

今日はソフオクレスをよみました。アンチゴネーとエレクトラとオイヂープスと。中で一番よいのはアンチゴネです。オイヂープスはアンチゴネに比べれば落ちますね。トラキスの女達は、それ程感心しませんでした。アンチゴネもエレクトラも、各々の妹が出て来ると比較され、卑俗な屈服主義や妥協のないところ、理念に従はんとする強い意志にうたれますが、ところどころ片意地のように感じさせる言葉もあつて、これがなければと思はせません。だけどそれは問題にはなりません。

エレクトラでは、クリタイムネストラの言葉の中にも彼女の真実があるではありませんか。彼女の云ひ分もつともだと思ふところがあります。大体私はアガメムノオンが嫌な奴だと思つてゐるので、尚さら思ふのかも知れませんが。クリタイムネストラがアガメムノオンを責めて云ふでせう。

“あの子を生んだ苦しみは私みたいにはしなかつた<sup>①</sup>せに、敢えて娘を犠牲にした。誰のために、あの子を犠牲にしたのです。ギリシヤ勢のためだとお云ひかい。然し私の子供を殺す権利はあの人達にはない。メネラオスには二人の子があつた。私の子よりその方が死ぬのが当然だ。あの渡海の原因になつた親の子だもの。あの人非人の父親には、私の生んだ子供など何でもなかつたのだ。お前の意見と異つても、あの死んだ子だつて、物が云へたらさう思ふだらうよ”

クリタイムネストラはアガメムノンの勝ちさま、利己主義がゆるせなかつたし、にくんでゐたから、アイギストスを愛したのでせう。アガノム<sup>②</sup>ノンを殺すより、二人が逃げれば問題ない。これちや感想にはなりませんわね。

プランティションは第七節の七まで、ノオト終りました。とても〜時間がかかります。その代りじつくりとしみこんでゆきます。ニューデイルの「農村金融」になると、怒りのぶどうが全面的に浮んで来ます。あの最初の頃、「銀行が土地をとつた！」と叫んでゐるミユラーと云ふ農民の姿が。でもこの辺、すこし力ぬけしてゐるみたいに感じられます。

ニューデイルに這入ると、知らなかつた新しい事実を知る面白さがあります。矢張り全体に、それ以前にくらべると妙に力ぬけがしてゐますね。あふれて来る情熱がうすいのです。前のクロパーの脱ぎの生活や黒人の人種問題のあたりは、本当に血のにじむ様なものがあつた。読み乍ら、書いた人の持つたと同様の憎悪も、もえる様な怒りも感じました。

ずつと前、あなたと見たシャークアイランドと云ふ映画、覚へてゐるでせう。あそこにあつたチエイン・ギヤング、それからタイフーンに出て来る囚人労働、あの残酷、ドライバー、監視者。あれを見た時、とても見てゐられない、嫌だくと云つた時、あなたは嫌だと云つても、あれが現実だ、それを正視しなくては解決は生れない、と云ひましたね。

あの時、感じたそつくりの感じを、あなたのプランティションの今までよんで来たところで感じましたが、今度は其の恐ろしい非人間的な□や暴ギヤクを正視出来ず、逃げようとする気持は全くなくつて、それを作り出すものへの憎悪を感じずにはゐられませんでした。其の意味で、あなたのこわさうとしたところは成功だつたのでせう。ところがニューデイルにはいると（今のところまだ七節の七）、妙に遠のいて物を云つてゐるところがあります。生産制限が帰農者や零細農をますく、駆り立て、其の悲惨に拍車をかけるのに、金融も又、プランターたちに利あつて、小農民たちはますく、加速度的に土地を失ふところなのに、グこんな風だつたとと唯報告してゐる様な、熱のない表現になつてしまつてゐる。数字もあそこでは、もつと出して示してくれてもいいと思ふ。空屋だの失はれた土地の数字も出てゐるが、どうもお義理的にならべたようにも思へます。

十一月廿七日（月）

雨の中を大きい荷物を持つて、新飯田橋の局へ行つて来ました。森男が月末に除隊するので、私服を送りました。帰つて来たら子供が一杯、下の炬燵にゐて、見てやつてくれとのこと、一時お守りをしました。

うるさくて嫌になりますわ。本当に自分の子供だつたら、一分だつて自分から離れないとすると、やりきれませんね。声をつぶす程、本をよんでやつても、指の痛む程、積木をしてやつても、返つてさわぎを大きくする丈で、誰一人、子供達は満足してくれやしませんわ。大人がゐなかつたら好き自由にやれるものと、返つてうるさく思つてゐるさやがらせれば、お守りだと思つてゐるからかなはない。子供と云へば、又おくれひてゐて、そんなけはひも一寸もありませんから、怪しいなと思ひます。



十一時頃、廿四日附の手紙落手致しました。空襲の前に出したのね。何ともその事はふれてるませんから。廿四日には銀座へ出ると書いてあつたから、あぶない〜。ちようどおひる時、銀座にゐた訳ですね。嫌なこと。こちらでは心配してゐるんだから、早く何とか知らしてくれなくてはいけませんよ。

北条さんとのプランティション問答、大変ゆ快地読みました。北条さんもあなたの意図した所を読みとつてくれましたね。プランティションが単なる経済制度や農業問題でないこと、そしてそれは単にアメリカ南部に於ける特殊なものではないこと、そして問題はおくれた制度の遺物が現社会でどんな意味を持つて、どんな働きをするかーさうなると問題はアメリカの事でなくなつて、全世界の問題になつて来ることは、よくよんだ人なら誰でもが掴み得る事なのです。問題は正確に提起されてゐる。そして解決の道も見えてゐる。北条さんの云ふ通り、歴史と云ふものは何か、さうして歴史を進める主体は何処にあるか。偏見なしに真面目によめば、感じられるのが当然です。

Sさんが「アメリカのそれとマライや西印度のところがふかかわからない」なんて、随分見当はづれの感想を述べたものです。あの人は何をよんだ事になるのでせう。何を求めて読んだのでせう。誠実に読めば、何が提起されてゐる問題か、わかる筈なのに。あんな読み方をする人なら、小説も映画も理解し得ない人ですね。Sさんの感想を読んで思つた事は、ミケランゼロがあれ程の深い思索、全思想を、情熱をうちこんで作つたダヴィットを見て

A “まとまつてる人間の形だね”と云ふ批評をする人々

B “全裸とは不道德だ”と云ふグループ

C “石を投げて何かをうちこはす事を示してるね”のグループ

を思ひ出します。それ等はまだまだまつとうなみ方でせう。Sさんの“他の彫刻とくらべると、手足の形が何処かちがつてるんだ”のグループを想ひます。批評以前ですね。あの人はそれ程モーマイだったのかしら。如何なるリラもならず指を持たなければ音を出せないのです。あれが書いてない、これが書いてない”と云ふ批評以前だわ。感じるハートを持たないのです。さう云ふ人たちが中堅学者とは何と云ふ学界の貧困でせう。豚に真珠ですね。豚は食べられないから騒ぐでせうが、豚を対象としなければいいのですわ。学者たちより普通の読者が其のカチを見出すでせう。豚との斗ひに思ひわづらうなかれです。

大体Sさんの家庭生活を見た時、それは感じました。内容をでなくて、形を求めてゐる夫妻だと云ふことを。奥さんの「勉強」と云つてゐるもの、其の内容は彼女が心から求めて起きて来たそれでもないし、Sさんの理解者としてのそれ

でもない、唯「形」をそこに感じ、二人とも矛盾も感ぜず、至極まん足してゐる様子を感じました。『妻も勉強してゐる学者夫妻』、唯それだ。自分達の内心の欲求からでなくて、ひどく云へば、外へみせるスタイルとしてのそれですわ。あれでまだ奥さんが、私はそんな勉強したくないと云ふところがあるなら、まだ脈があるけれど、そう云ふ事をそうとも感じぬ鈍さ。それを又、よろこんでゐる夫、嫌ね。オペラ館あたりの何かになつて、民衆の笑ひものにされる学者の家庭、そつくりそのまゝです。扱Sさんのわる口をここでやめませう。

あの「プランテーション問題」はシンクレアがマナサスに於て掴めなかつた最奥の姿を掴み、スタインベックがこわさうとしたニューデールと其の失敗、土地を追はれてさすらふ農民の其の背後にあるもの、スタインベックも又そこまで示し得なかつた姿を、血のしたたる様な事実(統計、引用されてゐる小説、実話)を拾ひあげてこわしてゐる。シンクレアのマナサスやスタインベックのそれがベストセラーズであつたのなら、あなたのは今まで誰も書かうとして書かず、誰も掴めなかつた一番の問題を、情熱もつてつかみとつて見せてゐるのです。

勉強と云つてゐるけど、生きてゐる我から離れて、どんな勉強のカチがあるでせう。我は市民的我でなく、個別的我でなく、より大きな進展した人類に通じる我として、生きた人間、生きる人間としての我から離れて、知識も其の堆積も、どんな価値を生ずるでせう。唯の「あつた事」の羅列なら、生きる我にどんな意味をも与へない。人と人との関係、社会と社会とのつながりを断ち切つた「形」を調べたつて、どんな感激もどんな感想もありはしません。それに意味を持たさうとしたり、意味ある様に見せたり、興味ある様に見せるのは、通だと云はれたいために、もりそばにおつゆをつけずに食べる人の類ですわ。さうなると学者であることは、通と同様に、何と味きない、まづい事でせうね。豊かに人生を生きようとするものは、たつぷりおつゆをつけてぞんぶんに味はひませう。

結局、私の思ふには、血の生々しく通つたものは、通は誰にもわかる事だからいやがるが、民衆はよろこんで味はうとする。通は通である名譽のためには、実さいのおいしさをけなす事によつて、通の誇りをまん足させる。だから一番知つてゐるとされる通は、本当の味のおいしさを一番知らない。「お前達とは異つてゐる、お前たちよりよく知つてゐる」と云ふ優越は、何時のまにか一番知らないと云ふ事になつてしまつたのです。「習慣でまづいものをおいしいと思ひ、おいしいものはまづいと云ふ錯倒(ごころまちがひ)が本物になつてしまつた。健康な人々の中で不健康な味覚の持主が学者で、人と變つた感じ方をする故にめづらしがられ、珍重された」と云ふレットルをはられる時代が来るでせうよ。不幸にもあなたのまはりには、それがうぢやくゝゐるんです。そんな珍重型に、思ひ上つたかたわ者に、同意されぬ事こそ幸福です。

そんな人達の共同戦線にびくつく<sup>(7)</sup>。あなたらしくもない。大体あなたの読んでほしい対象は、彼等ではないでせう。真実の歴史を求める人でせう。

此処まで書いたらアーチャンが来て、又東京空襲、ラヂオをきらぬようにと云つて来た人があると云ひに来ました。嫌なこと、どうぞ何事もないように<sup>(8)</sup>。あなたも早く疎解<sup>(9)</sup>なさい。

幸子

### 謙一から幸子あて（一九四四年一月二十七日の記）

十一月二十七日（月）曇雨

雨のぼろつく密雲の閉された中に「敵機上空にあり、京浜地区盲爆中」ときいた時は、僕は鎌倉の妙本寺の杉林の中で待避してゐたのです。

今朝、みんなの出揃ふのを待つて、十時十九分経堂発の小田急で鎌倉へ行きました。雨になりさうな深い曇り日だったので、ゲートルも鉄カブトもつけず、夜は本郷の大熊さんへまわるつもりでした。片瀬へついて、江の島の橋のたもと宿屋兼飯屋に「本日カレーライス」とあるので、は入りこんで水兵や産業戦士等と一緒に、江の島の橋のたもとだけのカレー汁のかかつた「カレーライス」金七十銭也をたべてみると、怪しげなサイレンです。水兵連中は「サア大麥だ、いそげよく」と、うまく胃袋へは入ったかどうかからんな、と思はれるほど大あわてに飯をかきこんで、バタ／＼と片瀬駅の方へかけつけました。僕はユーユー食事をすまして、国民学校生徒の防空頭布<sup>(10)</sup>のがやく／＼つめこまれた江の島電車でのろ／＼と、サビレ果てたやうな例のいかにもみすばらしいキャンペーンも廃残のやうに並んでゐる、七里ヶ浜の灰色の海景を通りすぎて、長谷へは入ると空襲サイレンです。どうするかと思つてゐると、電車はそのまま鎌倉駅前まで走つて了りました。ところが駅前ですこらにゐた連中全部と一緒に、妙本寺まで待避に追ひやられることになつたのです。

妙本寺の杉林は、あとから／＼十人、十五人と待避客をむかへましたが、雨はこぼれて来る、林の中はひえる、状況はまるでわからない、と云ふ風なので、一時間半ばかりがまんしてゐたが、ぼつ／＼がまんの出来ない連中がのそ／＼出て行きはじめました。怒られるとつまらないので、僕も余り目立ないやうに、そろ／＼駅の方へ近づいて行きました。

「盲爆中」と云ふのは大分気懸りな言葉で、これは或ひは経堂あたりもやられたかな、とすると、僕はみつちやんの赤ん坊の不幸のおかげで命拾ひすることになつたかなとも思ひました。

省線電車は時たま動いてゐましたが、非常線突破証がないと駄目なんです。三時近くなつて、雨がほんぶりになつてやつと、空襲警報が解除になりました。みつちやん所へは入つて行くと、二人とも下で、京免さんやアパートの人らしいのやと話してゐるらしい所でした。すぐ二階へ上ると、床の間に小さな骨壺が、箱にもは入らず、白い布でつつまされたままおかれてあつて、その前に小さなリングの盛つたお皿と、ごはん、線香とローソク、そしてひなびた菊の花とがそなへられてゐました。部屋はガランとして、片すみに、三日前まで赤ん坊のゐた藤台がそのままになつてゐました。みつちやんも泣きつかれたやうな表情でしたが、気持は恢復してゐて、いろ／＼と涙ぐみながら話してくれました。「あたしがわるかつたの。泣くもんだから、ついおぶつて隣組配給なんかで出歩いたので、風邪をひかしてしまつて。

お医者さんはちつともきてくれないでせう。八つちやんは熱で火のやうにまつ赤になつて苦しきうなんですけど、氷も水枕もなくつて、手拭をしぼつて冷したんですよ。四十二度も出るんですもの、手拭なんかすぐかわいて了つてね。でも死んでから迎もかわいひ顔になつたわ。何とも云へないほど可愛い顔で、これがあたしのうんだ子かと思つたくらいよ。生きてゐる時は色が黒くて髪はちぢれてゐて」「だけど生きてる時だつてかわいかつたよ。あごのあたりなんか実にかわいかつたぢやないか」「そりやさうだけど、でも死んだ時の顔は本当にかわいかつたわね」「菊池さんや幸子さんに對しても申しわけないと云つてゐるんです。ずい分前からいろ／＼と注意されてゐたのにこんなことにしちやつて」「いや僕も自分のことにかまけてすつかりごぶさたして、申し訳ないのはこつちですよ。だけど本当に残念しましたね。赤ちやんの死ぬのはあつと云ふ間だからなあ。ずい分みつちやんもがつかりしたでせう」「何だか気ぬけたわ。でも迎も栄養もよくて、お医者さんが、これは母乳でせう、て見ただけで云つたのよ。いいえ人工栄養ですつて云ふと、それぢや最近でせう、と云ふんでせう。いいえはじめからずつとですと云ふと、感心してゐたわ。人工栄養としては上々だつて。胃腸が迎も強かつたし、心臓も丈夫だと云はれたわ。手や足が迎も大きくなって、足なんか五月に生まれた京免さんの赤ちやんと同じくらいよ。だから迎も背が高くなる子だつたのね」「みつちやんはずい分たん青あせしましたからね。人工栄養だつたら、二時間と寐られないんですね。あれぢや母親の身体がたまらないなあ」「サッチャンが来た時はあの子は一番みつともないかつここうになつてゐたんだけ」「さうさう、あの時はクリ／＼坊主だつたしね」「アパートの人達迎も親切で、みんな泣いてくれたわ。苦しきうだつたんですもの、可あいさうで可あいさうで。前の日まつかだ

つたのが、あくる日色がさめたものだから、あたし馬鹿ねえ、熱が下ったんだと思つて、お医者さんに熱が下りましたわと云つたのよ。そしたら下つちやるませんよ、て云はれて、本当に下つてゐなかつたのでびつくりしたわ。アパートに看護婦さんがゐて、死ぬまぎわに、こめかみに指をあてて、脈があるから今カンフルを注射すればいいかも知れないからと云つて、ずい分あちらこちら探してくれたんですけど、注射薬がなかつたの。その中、指に脈が感じられなくなつて、その看護婦さんはわあ／＼、それこそわあ／＼泣き出すし、アパートの人達も一ぱいつめかけてゐたんですけど、みんな泣き出して」「僕が帰つて来ると大変なんですよ。みんな泣いてゐて、僕を見ると、旦那さんは一体どこをうろ／＼してゐたんだなんて怒り出す人もゐるし」……。

火葬は昨日すましたのださうですが、一貫三百匁あつた八つちやんの棺桶（恐らくいろんなもので二貫近くになつてゐたのでせう）を教次君が、始めは胸に抱き、次にはおなかで支へ、おしまひには肩にかついで、歩いて四十分もかかる火葬場まで、二人で歩いて行つたのださうです。その途中で空襲警報も出るし、火葬場では薪がないと焼いてくれなくて、十バとどけたのださうです。丁度僕が行つた時は、テープルの上に巻紙の書きかけがひろげてあつたが、「今信州へお手紙書きかけてゐたところですよ」と教次君が云つてゐました。

とにかくせつかく三ヶ月まで丹青してなくしたのには、ずい分がっかりしたことだらうと思ひますが、みつちやんはもうほぼ元気で、之からは京免さんの赤ちやんの一人をみてあげるんだと云つて、五月に生れたと云ふその赤ちやんを抱いて来ましたが、「かわいい赤ちやんだなあ、人見知りしないですか」「ちつとも人見知りしないわ」と云ふので半ば安心して見てゐたら、とう／＼泣き出されてしまひました。

警報出たら松沢君の送別会は順延だと云ふし、帰つて火を起すのは大変だし、すすめられるままに夕ごはんを御馳走になりました。みつちやんはしきりにとまつて行けと云つてはくれましたが、盲爆と云ふのが気がかりで、七時半に雨の中を帰りました。鎌倉駅で電車は中々来ず、雨と風とにすつかりひえ、おなかもおかしいし、いささか弱りましたが、どうにか乗客少くて坐れたので、楽に経堂まで帰つて来ました。新宿まわりで。帰つたら九時半。

今日の爆撃には、青山五丁目にバク弾が落ち、原宿には焼夷弾が落ちて火事になつたさうです。よく経堂へ疎開しておいたものだと思ひました。乃木神社へも落ちたとか。とにかく山の手方面と云ふのは青山、赤坂だつたのです。外には本所、千住等に落ちたさうです。本室あたりでもズシン／＼とバク弾の落ちる音がしきりにきこえたさうです。

大分事態は深刻になつて来ました。毎日、降つても照つても来るとしたら厄介です。それに青山や原宿がやられるのは、

いささか剣呑ですね。併し僕の方は大丈夫です。なるたけ出て行かないことにしますから。みんな食事を二食分づつ持つて来るやうになり、歩いて帰れる道をためししてみたりしてゐます。僕はその点、めぐまれてゐるわけです。

今日廿四日夜のお手紙見ました。心配して下さつて有難う。この手紙も明朝早速出します。雨がふり風があつて寒く冷たい夜です。今夜は火がないので、すぐ寝ませう。すつかり冷えました。

### 幸子から謙一あて（一九四四年一月二七〜二八日の記、二八日の消印）

十一月廿七日午後

午後三時すぎ、廿四日の手紙うけとりました。あなたの方、何事もなかつた相で本当に安心しましたが、今又、東京空襲とかで、又々不安になりました。毎々空襲はあるでせうし、あなたがこちらにゐない限りは心配せねばなりません。すぐこちらに来られるものでないとすれば、其の度にあなたが芝生でのんびりでなく、壕の中へ完全に避難して、出来る丈の安全を計つてくれる事が一番です。

十一月廿八日、晴風激し、18°

今日から桃ちゃん登校で、私も一緒に六時前に起きました。六時前つて相当暗いんですね。ここずつと寝坊ばかりしてゐたので。八時までには朝の行事凡てすみしました。

それから一寸と思ひ乍ら、とうく十二時までにかかつて、アキユラの戦を読みました。前に一度読む事は読んでゐたのですが、かんぢんの事は読んでゐなかつたらしい。これは南北戦争ものだと思つてゐましたが、正面から扱つたものではなく、一エピソードでした。クラブとしてユニオンリーグの名前が出て来ますが、ユニオンリーグらしい面影はありませんでした。北軍のフランクリン大佐とフハフハと云ふ其の部下、南軍の將軍の妻、エリザベス・クリテンドンとの思はぬカイゴウ、個人的な親しみ、結婚までの話です。フランクリン大佐は奴隸を一人は昔持つてゐたし、南部と北部の対立も感じてゐない。唯、上からの命令で戦争をやり、部下に話す、これと云ふ政治理論も信仰も持つてゐない。うすぼんやりした善良な男です。詰らない小説でした。何故あれがベストテンになつたのでせう。南部の将校の妻と北軍の勇士の、静かな自然な恋愛でせうか。四時間使つて損でした。あれなら戦争は南北戦争でなくてもいい。

さて昨夜はふうちゃんと桃ちゃん（彌）と三人で、皆ねてしまつてから炬燵にゐました時、偶然（彌）バイロンの話が出て、カイン、マンフレッドの話から、ブランドスの十九世紀文芸思（彌）史の話になり、フーチャンはノオトでもいいから、すこしやつてくれと云ふので、押入からブランドスのノオトを出して、フランスの反動文学からローマン派までをかいつまんで話しました。去年ブランドスがあれ程面白と思へたのに、今ノオトを出してやつて見て、どこがそれ程私を惹きつけたのか、しばしばうぜんとしました。一人一人をお手軽に知る事が出来るし、かんたんに文学史をやるよさはあつたし、スタール夫人だのジオルジュサンドのあたりは、今でもブランドスの教へで得をしてゐますけれど、ノオトの取り方も極めてよくない。ブランドスと云ふ老大家の言葉とは思へない、軽率な感激の言葉が多すぎる、と思ひました。併し、とに角私はブランドスから多くのものを得たのだから。唯、もう一度見直した時、案外感激しなくて失望したのでせう。其の後、稲ちゃんから何か云つて来ましたか。あの人も女子アパートの地下室がそれ程安全でないと思ひ出したであらうと思ひます。それに夜上空襲あるものでない事もわかつたでせう。

今日は十一月の末としては妙な程暖かです。習慣で朝炬燵に火を入れましたが、誰もはい（彌）る人はありません。今日は特に書く事ありませんので、これ丈で出しますせう。ダイヤモンドの原稿はもう出しましたか。 さ（彌）ようなら。

### 謙一から幸子あて（一九四四年一月二八日の記）

十一月廿八日（火）晴

今日は快晴だつたけれど、廿四日以来はじめて警報なしに夕方まですぎました。だが月がすてきになるので、夜でもやつて来ないとは限りません。

昨日はNo.34（廿四日夜）、今日はNo.35（廿五日夜）のお手紙拝受しました。空襲で大分心配させましたね。電話は空襲後五時間使へないし、ここの電話は話しくいし、電報はうけつけてくれない、結局手紙より仕方ありません。昨夜も盲爆と発表されたから大分心配してゐるだらうと、帰つてすぐ手紙を書きましたが、雨はびしょく降り、風も横なぐりに吹いて、夜おそくポストまで行つたところで集配は朝だからと思つて、今朝出したのです。今日は晴れてあたたかく、今ペンをとつてゐる廿八日午後六時に気温十七度です。昨夜のあの寒さ冷たさはうそかと思はれるほどです。今朝みんなが出揃ふと昨日のはなしです。僕が下りて行くと、八木、竹中、谷川、古田、坂巻の諸君がゐりましたが、八

木「菊池さんはどこにゐたんです、昨日、あの時」「僕は鎌倉の妙本寺の杉林の中」「杉林?」「うん。そんなところへ待避させられたんですよ。寒いし冷えるし、情報はわからんして弱つたなあ」。八「僕は外務省にゐましたよ。あそこには大きな防空地下壕があるんで、本室なんかよりずっと安全だね。五百人くらいは入るかな」。谷川「どこ。そんな大きな」。八「図書のある地下ですよ」。竹「併し五百人一緒なんてよくないんだろ」。僕「さうだよ。タコツボみたいに一人づつのが理想的なんだろ。今に、向ふのでかい飛行機が夜なんか来て、こつそりタコツボみたいな防空ツボを地上へおろし、それから爆撃をやる、みんなタコツボとは知らずにその中へもぐりこむ、そこを釣りあげて、やあ釣れた釣れたと云ふ風なぐあひになるかも知れんぞ。僕のかくれた杉林なんか、ちよつといいやうな気がしたね。何だか、バクダン落ちて来ても、どつか枝にでもひつかかるやうな気がしてね」。竹「馬鹿云つてら。僕は本室にゐたけど、ずい分ドシン／＼バク弾の落ちる音がしたよ。あそこの防空壕なんか駄目だろ。始めは入つてゐたけど、冷えるしね、やり切れんから、あとでは庶務の部屋で駄弁つてゐたよ。芦野さんや吉沢さんとね。芦野さんも、かうやられちゃ堪んて云つて、大分弱音を吹いてゐた」。八「無理ないね。僕、外務省の地下室にゐた時、ドシン／＼すごい音したけど、あれ青山のバク弾だつたらしい。菊池さん危いところでしたな、青山五丁目と原宿ですよ。青山の方はバク弾で、原宿の方は焼夷弾ですよ」。ボク「本当だ、危なかつたなあ」。竹「青山はまだ電話が通じんよ。中尾さんなんかね、渋谷がやられたらしいから地下鉄も通じないだらう、歩いて帰らにやならんて云つて、大分悲壮な顔してゐたよ」。谷川「原宿のは、僕の知つてゐる人が東横の上で見たさうですよ。何でも焼夷弾らしくて、何かあの方向へ落ちたなと思つたら、忽ちまつくるな煙が上つて、こりややられたなと思つたさうですよ。そしたら空襲警報になつた」。ボク「ぢや空襲警報の方がおそかつたの」。谷「おそかつたらしい」。八「神社ではどこです」。谷「乃木神社とかきいたけど、乃木神社でどこですか」。ボ「赤坂ですよ。ぢや青山、赤坂か。青に赤。赤はわかるが、青も一向安全ぢやなかつたね」。そこへ堀江君が入つて来ました。「あたしは汽車の中で、しかも八王子についてた時、出あつたんですよ。これややられたなと思つた。何しろ立川、吉祥寺と通つて帰るんでせう。危いつたらないんだからな」「汽車はうごいたの」「いやとまつたり、うごいたりしてね。吉祥寺あたりでは上空に來たらしくて、友軍機とはちがふ爆音がして、やつぱりズシン／＼すごい音がしましたよ。みんな汽車の中であをくくなつてシヤガンでゐた。新宿へついでからまたストツプさせられて、帰つたら六時さ。朝八時に出て六時だよ、参つたね(彼は大月からバスか何かでは入る富士山麓に家族を疎開してゐる)」「今日あたりまた来るぜ」。



僕は昨日、二時間近く妙本寺の杉林の石の上に腰かけて本を読んでゐた時冷えたのか、あれから腹具合がよくないので。みつちちゃんところで泊らなかつた一つの理由も、腹がいたかつたからです。帰りもずいぶん分つらかつた。今日もずつと下腹がはつてゐて不快です。今日は昼も夜も経堂駅の近くの外食券食堂で食べました。いもばかりです（オカヅが）。例へば昼はメシ、いものにつけ、みそ汁、オシッコ、之で三十五銭。昔なら十二銭ぐらいでせう。即ちメシが五銭、おかげ五銭、汁二銭。夜はめし、いもの煮つけ（同じもの）、おつゆだけが昼とちがつて油気のないケンチン汁（サトイモと大根とだけ）、之で四十銭。本当に三食こんな風な外食だと、栄養なんかとれつこありませんね。

今日は実は松沢君の送別会で、大熊氏の家へ行く筈でしたが、腹具合がわるくて困つたなと思つてゐたら、昨日松沢君と柴田君とだけが来て、早川君は警報が出たから順延だらうと思つて来なかつたのださうで、いはば行きがちがひでお流れになつたのでした。僕も明日早川君とレンタックすることにして、今日は丁度腹痛だから早く寐ようと思つてゐる所。

空襲がかう云ふ風にひどくなつてくると共に、僕のやうに住所と職場とが同じところで、おまけに郊外だと云ふのは一番安心なわけです。尤もアメリカでは、東京を十六ぐらのマスにわけて、今日は第一と第四、明日は第二と第六、と云ふ風に順々に来るのださうだとも云ひますから、さうなればどうせ一度はやられるわけだが、この辺は家も建てこんでないし、木も多いから、直撃弾をくらはない限り、先づ大丈夫でせう。安心してゐて下さい。余りひどくなれば、そちらへ逃げて行きます。それより僕の本のことが心配です。早く出ればいいが。

ハンコはせつかくもらつて来ていただいたのに、字がちがつてゐたのは残念でしたね。

「怒りのぶだう」についてのあなたの意見は立派です。そんな風に読んで行けば、何を読んでもきつと自分の世界観の本当の栄養になるでせう。

タバコは明日くらい送るやうにさせよう。大体なくなるころにそちらへ届けばいいのでせうが、島村君もタバコをためてゐますから、あなたかふうちゃんかが、上手にお父さんに「支給」してくれると思ひます。

僕の「プランテーション」が、問題提起と啓蒙との統一に失敗してゐないとあなたから云はれることは、大変うれしいのですが、やつぱりさうでもないのです。まだあれは本当の啓蒙的な労作ではない。啓蒙的に書くためには十二分に消化し、結論もはつきり出てゐるやうなものでなければならぬ。ところが、あの「プランテーション」は実は結論がない。結論は書けなかつたのです、いろんな意味で。結論は読者が自分で見つけ出さねばならないのです、あの本では。またあの本の文章や言葉づかひも啓蒙的意識でつらぬかれてゐない。

さう云ふ点では、羽仁さんのミケランジエロ以後のもの（クロオチエ、歴史科学、倫理学その他）は立派です。ただ啓蒙的意識で貫かれると、読者と著者との間に生徒と教師、と云ふ関係が出来ておそれがあります。僕が羽仁さんの此の頃のもの、中条氏、中野氏のものなどにさう云ふもの、説教的なものが感じられ、それがあの人達の書く物を小さいものに感じさせる、のびくしないものに感じさせる、と云つたら、北条君がたしかにさうだと賛成しました。「読者から自分からいつの間にか離して、いや自分を読者からはなしていつの間にか教壇にたつて、『諸君』と云つてゐる。『諸君は何々せねばならない』、これは教師の口調ぢやないかな」と僕が云つた時、北条君も「さうだ、『諸君』と云ふのは本當ぢやない。『我々』と云ふべきだ。いつでも『我々は何々しよう』と云ふべきだ」「あれはね、羽仁さんの場合、学校の先生をしたことが関係を引いてゐるんぢやないか」「さうかも知れないね」「さうですわ。学校の先生をすると、さう云ふ口調になりますわね。こはいものね」「諸君と云つて自分を読者から離すと、啓蒙の意味はつていしなと思ふね。啓蒙とは説得だからね。説得の立場はいつでも相手と同等の立場でないとけない、デモクラチックな立場でないとね」。

問題提起と云ふことは、読者と同じ立場で『我々』と云ふ呼びかけでなされる。啓蒙と問題提起との統一は、第一に著者の立場を讀者と同一の足場におくこと、著者と讀者との間にギャップがあつてはならないこと、と云ふことにありさうです。併し僕の之までのものは、大てい啓蒙意識に貫かれてゐない。わかりにくい言葉や、長い入りくんだ文章などは、その点の意識の稀薄を直接に示します。之からはうんと注意しませう。

竹中君の結婚問題はどうか僕が敗北に終りさうです。だが僕はまだあきらめてはゐない。今日もずい分強く、彼が可哀さうに見えて、何とかしてやりたいと思ふほど、云つて云つて云ひ抜いたのですが、彼の感じかたの浅さは救ひがたい。「君は皮をかぶつてゐる。肉で聴かなきゃ。ああ、火の言葉がほしいよ、君のそのあつい皮を灼きつらぬいて、君の本来を呼びさましたいな。駄目だよ、そんな。理くつはわかつてゐる、だけど……なんて、そのだけどがいかなのだ。一体君はその相手を見たのか、会つたのか」「いいや、写真だけなんだ」「それで、少しでも、うまく行くだらうと云ふ感じがするんか」「いや実は反対だ。うまく行かんにきまつてゐると思ふ」「なんだ、それぢや無茶ぢやないか、いかにいかに、どうあつてもいかに。絶対にいかに。そんな無責任な。何もせん方がよつほど人間らしい。君は何もせんのだやなく、積極的な悪をするんだよ。そして、こんなにまで、君は罪を犯すんだ。自分の正しい半身を殺して、自分の本来を殺して墮落するんだ。それだけでなく相手をも殺すんだ。人間関係をいい加減に考へるなんて生きる資格ないぞ。

君は見合結婚とは、売春婦の所へ行くより悪いんだと思はないか。売淫だよ。売淫の方がまだ事態にまぎれがない。見合結婚は売淫と云ふ非人間的行動を、結婚と云ふ正常の形式でごまかしてゐるんだ。偽善だ、憎むべき偽善だ。売淫ならまださう毎日と云ふわけでないが、見合結婚は四六時中恥づかし気もなく売淫することなんだ。怖しいことだ。醜悪なことだ」「だけど多数者はさうしてゐるんだらう」「多数者は必ずしもさうしてゐない。多数者がさうしてゐたのは過去だ。人々はだん／＼人間関係のより正しい方向へ向つて来てゐる。今は例外だけど、社会の近代化は人間関係の近代化を導いてゐるんだ、人間関係の解放、その近代化もまた社会一般の近代化を促進するんだ、この二つは実は同じことなんだ。どんな不十分な恋愛でも恋愛結婚の方が人間的だ。恋愛結婚は結婚当事者が、人間として責任を以て行動することになる。自分の最も重大なことを、自分の責任に於てやることになる。だが見合結婚は人間ぢやない、責任能力者の人間としての行動ぢやない。人間になれ、人間に。誠実に、誠実に」。

「ぢやどうすればいいんだね」「先づその現在進行中の結婚話をことわること。ことわれないことないよ、君の一生の重大事だ、いや君の相手にとつてもね。だからぎり／＼、式の夜でもことわれないことない。たしかそんな映画あつたぢやないか。『或る夜の出来事』がさうぢやなかつたか。でもなるだけ早くことわる方がいい。だんだんことわるのに勇氣が必要になる。第二に、自分の生活を誠実に建設すること。勉強するなり、仕事に全力をうちこむなり、友情を深めるなり。君の対人態度はなまぬるい。もつと誠実で、もつと深くないといかん。誰にでも通り一辺なつきあひ相手で満足しちやいけな。君は今のままなら女の友達が出来ても、音楽会へ行くか映画を見るか、あたりさはりのないサロンのなつきあひしか出来ない。それが都会人のやりかただ。君の生きかた全体が問題なんだ。本当に生きぢやゐらないよ。ふわ／＼と現実のうはつつらを、心ここになく過してゐるんだ。だから何でもい加減なんだ。自分の一生の最大の重大事についても、まるで他人事のやうにいい加減なんだ。とにかくこの二つ、結婚をことわり、自分の生活を正しくうち立てること、この二つはどうにも否定出来ない明白事だ。だが今の君にはたやすいことぢやない。君としては一つの自己変革的な努力なんだ。君は自己変革が必要なんだ。卑俗なことばかも知れんが、生きるか死ぬかだよ。死ぬのは簡単だが生きるのは困難で、伝統的な緊張が要るよ。此の頃『体当り』と云ふのがはやるけれど、あの『体当り』と云ふことほど、今の日本に象徴的なことばはない。『体当り』と云ふのは破壊の戦法で、決して建設の戦法ぢやない。建設はどんな小さなことでも、人間の精神力の強度の緊張と機能とが必要なんだ。君は何もかも眠つてゐる。生きる生きろ生きろ、死んぢやいかん死んぢやいかん。いや相手を殺しちやいかん。最低のところ、何もしない方がいい。僕は云つ

て云つて云ひまくるよ。たのむから。たのむから元氣を出してしつかりしてくれ」。

本当に火のことばがほしい。自分の力のなさ、言葉と論理との僕の武器の鈍さ、にこんなにはがゆく感じたことも多い。火箭のやうな言葉がほしい。彼のやうな皮膚には、僕のどんな言葉も、かすり傷一つおはせられない。しかも僕は何とかせねばならない。今までは彼がやつて来て、何かの話からその話へ行つては、一時間乃至二時間しやべる、と云ふ形だったが、明日からはこつちで何とか理論をきたへておいて、積極的にやる必要がある。邀撃する必要がある。白田君の方はよつぽどまじめです。尤も彼女のその後のことはまだわからない。高崎へ行つたきり、まだ帰りません。

どうしてみんなかうなのかしら。いねちゃんも此の間来て、「佐々木さんが結婚の相手をさがしてゐるのだけれど、森本さんはどうなのかしら」と云つたから、それはいかんと言下に答へておきました。結婚の相手として紹介しては絶対にいけない、佐々木君のさう云ふ考へかたを彼に直接に批判しつゝ、たいたい友達として紹介する程度以上であつてはいけない、人間の結婚をあはせもののやうにあつかつては絶対にいけない、とさう云つておきました。いねちゃんも、友達として紹介するつもりだと云つてゐました。

僕はこの十年ばかり、大ぜいの人々と接触して来て、今の時代の日本を形象化した小説を書かねばならないと時々感じたが、この頃特に感じます。僕がこの頃、対話風を書くのは、第一は僕の思想をあなたにつたへる手段であり、第二に僕の生活を周囲の人間関係と共に報告する手段であるが、第三には小説の勉強でもあるのです。尤も小説の勉強と云つても、手紙は大てい一時間か二時間の間に大急ぎで、余りよく考へもせず、思ひうかぶままに書くので、今のところただいくつかの言葉を記録しておく程度にすぎませんが。

で僕は、アメリカカ史を書くことと、日本の現代史を小説の形で書くことが、自分の之からの仕事だと思つてゐます。この予定がいつ果されることやら。では今夜はこれで。

### 謙一から幸子あて（一九四四年一月二九日の記）

十一月二十九日（水）晴

今日も快晴。来るか来るかと思つたものも、どうやら今日は来なかつた。昨日も警報は出なかつたが、二機帝都上空に

来たのださうです。

一昨日のバク弾は海軍館と東郷神社とに落ちたのださうです。青山五丁目の方はどこか知らないが、参道の伊藤病院が救護所だと新聞に出てゐましたから、原宿の元の家の近辺は大分恐慌を来してゐることでせう。

僕は一昨日、妙本寺の杉林の下の石の上に一時半ばかり、腰かけて本を読んでゐたために痔になりました。腹具合が悪いと云ふのは、一面、痔のためでもあるのです。昨日も今日も痛んで、ズキン／＼して、気分すぐれません。それ故今日の手紙も雑になるでせう。

竹中君のオブローモフ主義との斗争も今日は休みです。オブローモフですら恋愛をした、たとひそれが失敗であつたにしても。竹中君は恋愛も出来ない。結局彼がなぜ今、不自然な結婚をしようとしてゐるか、真意の判断に苦しみます。彼の結婚の第一の理由(意識的な)は、老ひ先短かく病身の父母の生活を保証し、且つ父母を安心させたいと云ふこと、第二の理由は、自分自身しつかりと自信のある生活をもたない漠然たる不安の感情から、人とのより安定的な結合を求めてゐること、なのです。ところが両親、殊に彼の母親は、彼が乗氣でない結婚をすることを余り望んでゐないと云ふのです。それ故、両親の強い要求から出たと云ふより、竹中君の両親への思ひやり、と云ふ形になつてゐます。さう云ふ風な形の両親への思ひやりが、いかに本当のもでないか、却つて自らの生活の不幸によつて、両親の不安を従つて不幸を増すことになる、と云ふことをいくら云つても、そして自分でそれがよくわかると云ひながら、やはりその考へをやめない。第二に彼の生活の欠除(欠)についても、彼自身よくわかつてゐながら、本も読みたくない、勉強もしたくない、と云ふ。始めはたとひよくない結婚にしても、他の面でのいい生活をすればいいだらうと云つてゐるが、今はさうも云はない。論理的にさうは云へなくなつたのです。結局、完全なオブローモフ主義の中へ自分を埋没しようと思ふのです。さう云ふ結婚倫理の不まじめが、罪悪であることをいくら云つても、多数者も犯してゐる罪悪なら、やつてもいいと云ふのです。かくの如きが、この十日ばかりの理論的な斗争の目下の帰結です。云ひかへれば、彼の結婚は僕との論争の過程で、一切の理論的な根拠を、従つて偽善的な装ひを剥ぎとられて、凡々たる醜悪な非人間的行為として赤裸にされたのです。そして彼の今の論拠の殆ど唯一のものとしての両親への思ひやり、両親の生活を安定させたい希望と、彼は一切のオブローモフ主義とをハカリにかけて、果してどちらが重いかで、彼の人間の価値が決定されるのです。僕としては、彼のオブローモフ主義への理論的攻撃をつづける他方、彼の両親の生活を安定させる他の手段を考へてやることしか、手段がない。今度彼があらはれたら(今日は彼は本室行き)、その点をもつと積極的に相談してみませう。

ちなみにA君（この十日に結婚した女の子）の相手と云ふのは、昨年交換船でイギリスから帰つて調査会の英研囑託になつたK君と云ふ、三十七、八若しくは四十前後の髪の毛のうすい、いや頭の上部のはげて了つた、さう云ふ人なんです。この人はイギリスで商売してゐて、イギリス人の妻君との間に子供まである人で、事によつたら四十四、五かもしれない。気の毒な人だが、見たところ個性もない、イギリス帰りの商人らしいタイプの大人しい人です。だから僕は竹中君に、A君の結婚は決して本当のリーベでないし、うまく行くやうには思へない、それでも見合結婚よりはいい、何故ならいかに中途半端で、いかに不完全な、矛盾の見えすいたものであらうとも、自分達のイニシアティブで、自分達の責任に於て結合したのだから、と云つたのです。それにしても此の頃、本当にいい結婚をした人の話をきかない。之もかうした時代のせいなのかも知れません。

今日あなたのお手紙No.36（廿七日）有難う。

ソフォクレスの批評を興味深く拝見しました。アンチゴネーの意義を読みとつてゐられることは大変いい。だがオイヂブースと比較する時、若干異議が出て来ます。エレクトラについての批評も、あなたがオイヂブースを評価し得なかつた同じ理由を含んでゐると思ふのです。アンチゴネーはたしかに、アンチゴネーとイズメネーと云ふ形で、人間の二つの型を極めて鮮明に、世界の全文学史上でも最も立派に描き出してゐます。だが、アンチゴネーには欠陥がある。それはアイスキロスがこのテーマを展開しなかつた（テーベの七将に傍系的に出ては来るが）と云ふことと關聯あるやうに思ふ。と云ふのは、アンチゴネーのモラルは政治的契機が欠けてゐるのです。何故なら、アンチゴネーがクレオンにさらつてもなさうとするポリュネーケースの死骸の埋葬は、ポリュネーケースに対する政治的批判を伴つてこそ、眞のモラルになるが、あそこではそれが無いのです。ポリュネーケースは自分の権力をとらんがために、他国の軍隊をたのんで、祖国の市民を戦火にさらしたのです。彼のエテオクレスへの憎悪が理由あるものであつても、いはば権力についての私怨のために祖国へ攻めこむことは、政治的にまちがつてゐる。それ故、クレオンがポリュネーケースを、一応罪人として法律的に疎外したのは、理由ないことでない。無論、ソフォクレスの「アンチゴネー」では、クレオンの法治万能主義に対するアンチゴネーの反抗と云ふテーマに整理され、その故にこそあれだけ力あるものになつたが、しかもこのテーマ自体のもつ政治的要因の不適のために、アンチゴネーの形象は法治主義、権力主義と自然法主義、人間主義との対立にしっかりとしめくくられず、政治と個人との矛盾、政治的峻厳と情状主義との対立の要因を有して、形象を弱めてゐる。